

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

歴史とは、人類が誕生以来今日に至るまで繰り返してきたさまざまな行動と行動にかかわる社会的現象であり、それらの具体的な継起や相互の関連性である。

歴史の解明には、考古学とともに文献史学をはじめ、文化人類学、形質人類学、民族学、民俗学、言語学、人文地理学、古生物学、動物学、植物学その他の枚挙にいとまないほどの多種多様な学問が関係する。さらに年代測定にかかわる¹C年代学や各種理化学的手法の応用がある。もとより各分野は歴史の解明という意味において同格であり、優劣の関係にあるのではない。解明すべき対象によって主導的役割を果たしたり、あるいは補助的、従属的となる。実際上は適宜に他分野との学際的研究が必要とされる。

各分野は、それぞれに独自の研究対象と分析方法によって主体性を確立する。考古学はモノを分析対象とする点に特色がある。モノとは、目で見ることができ、手で触れることができるものである。通常は人工物であるが、必要に応じて人の行動にかかわる自然物も対象とされる。^①貝塚に残された貝殻や魚類、鳥獣類の遺存体(骨など)は動物性の食料の残滓として重要である。また微細な花粉の抽出と分析は、自然環境や環境に対する人間の干渉の実態解明にとって不可欠の分析対象である。

しかし、考古学が第一義的に扱うのは、人の手によって加工された道具類や地上に設けられた構築物である。前者を遺物、後者を遺構と呼ぶ。遺物は持ち運びできる動産であり、遺構は大地と密着して移動できない不動産である。そうした一定のカテゴリをしたモノ自体のほかに、モノの存在を予想させる足跡や柱が腐朽したあとの空っぽの穴などがある。

^②そうした遺物、遺構の包蔵地が遺跡であり、かつてさまざまな行動が展開された場所である。換言すれば、そうした行動は遺跡、遺構、遺物に反映されているのだ。

遺跡の発掘は、そうした遺物や遺構を掘り当て、とり出す作業である。しかし、それは博物館の陳列棚に並べるためではない。遺跡における遺物、遺構のあり方(出土状態)を見極めて、行動との関係を読みとるための現場検証であるのだ。

^③考古学とは、遺跡の発掘から歴史解明に迫るさまざまな接近法の道程であるところだが、本文中で筆者がこのように述べるのは、考古学にはどのようなことが必要とされるからか。次のうち、最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 遺跡における遺物や遺構に反映された行動を見極めるために、遺物や遺構を掘り当て、とり出すことよりも、それらがどこにあるのかをさまざまな方法を駆使して探り出す工夫が必要とされるから。

イ 遺跡における遺物や遺構を博物館の陳列棚に並べるために、掘り当て、とり出した遺物や遺構のあり方を見極め、さまざまな方法で現場検証を行うことが必要とされるから。

ウ 遺跡において掘り当て、とり出した遺物や遺構のあり方を見極めて、さまざまな方法を駆使して、遺物や遺構とそれらに反映された行動との関係を探り出す工夫が必要とされるから。

エ 遺跡において掘り当て、とり出した遺物や遺構とそれらに反映された行動との関係を読みとった後、さまざまな方法で遺物や遺構のあり方を見極めるための現場検証を行うことが必要とされるから。

4 考古学における歴史の解明について、本文中で述べられている筆者の考えを次のようにまとめた。

a

、

b

に入れるのに最も適しているひょうつづきのことを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、

a

は十二字、

b

は九字で抜き出し、それぞれ初めの五字を書きなさい。

歴史的事件が発信するメッセージには、単なる歴史上のエピソードではなく、

a

があり、考古学においては一つの歴史的事件を解明することで完結せずに、発信されたメッセージを

b

ことが重要である。

る。遺物や遺構は口を開いて自らを語ろうとはしないので、あの手この手を駆使して探り出す工夫が必要とされる。考古学の勝負どころだ。^③考古学とは、遺跡の発掘から歴史解明に迫るさまざまな接近法の道程である。

考古学は、ある地方、ある時代の一遺跡が物語る歴史的事件を解明することで完結するものでは決していない。その事件が発信するメッセージを受けとめて評価することこそが重要なのである。そこには単なる歴史上のエピソードではなく、人間のあり様を洞察する鍵があるのだ。

(小林達雄『考古学ハンドブック』による)

(注) 継起 〓 物事が相ついで起こること。
枚挙にいとまない 〓 多すぎていちいち数えきれない。
¹C年代学 〓 炭素を使って科学的に年代を測定する学問。
学際的研究 〓 さまざまな分野の学問が協力して行う研究
残滓 〓 のこりかす。

1 次のうち、本文中の^①に入れるのに最も適していることはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 例えば イ それでも ウ しかし エ さて

2 そうした遺物、遺構とあるが、本文中で筆者は、遺物と遺構はそれぞれどのようなものであると述べているか。その内容についてまとめた次の文の

--

に入る内容を、本文中のことを使って二十字以上、三十字以内で書きなさい。

遺物は、

--

であるのに対して、遺構は、地上に設けられた構築物で、大地と密着して移動できない不動産である。

二次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

物ごとに心をつくる人の申されしは、「当代、法度なきとて、竹の子を根引きにしてたくさんにもあつかう事惜しき事ぢや。三年目には、見事の竹になるに」と申されければ、みなみな聞きて、「これは仰せのごとく惜しき事ぢや」といはれける。又そばなる人のいふ、「そうじて松茸なども、むさと食ぶるはいらざる事ぢや。一三年おいたらば、大木にならふ物を」と申された。

(注) 法度 〓 禁令。禁止されていること。 松茸 〓 キノコ的一种。マツタケ。

1 ^①惜しき事ぢやとあるが、皆はどのようなことを惜しいことだと言っているのか。次のうち、最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 竹の子を根もとから掘るのが禁止されていること。
イ 竹の子を根もとから掘っていいかげんにあつかうこと。
ウ 竹の子を根もとから掘るのに時間がかかってしまうこと。
エ 竹の子をいいかげんに掘って根もとだけをあつかうこと。

2 ^②いはれけるを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

3 ^③松茸なども、むさと食ぶるはいらざる事ぢやとあるが、そばにいる人がこのように言う理由を次のようにまとめた。

a

に入れるのに最も適しているひょうつづきのことを、本文中から三字で抜き出しなさい。また、

b

に入る内容を本文中から読み取って、現代のことばで十字以上、二十字以内で書きなさい。

物ごとに気がつく人の、

a

は三年たつと立派な竹になるといふ言葉聞いて、松茸も

b

と思つたら。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

同じ本を読んでもそこに見出みいだす意味は個々の人間によってまったく違う。それどころか一つの文字にも人は、まったく異なる意味を感じている。^① 学問的な事実はある。学者はそれを探究するが、読者はもっと自由に書物に

- 本を多く売つた上、深く売つた上がまったくと、真実は全無である。これは「売

「魚を食へる」に置き換えれば、すぐに分かる。数多くの「ベージ」をめぐれば、
く世界を認識できると思うのは、残念ながら空想に近い過ぎない。それはプールで
長く泳げば、海を深く理解できると信じ込むことに近い。ゲートと同時代人で



哲人は、読書が無意味だと語っているのではない。ただ、お手本をなぞるような読書からは抜け出さなくてはならないというのである。彼が私たちを誘こゝろをひお

- うとしているのは読書という習慣ではなく、読書を通じて思索の営みだ。この本の表題は、「思索について——読書によって陥りがちなわなをめぐって」とでもした方が肉実に近い。それほど著者は読者に向かって強く、読書だけで終わる生活を戒め、思索を促す。
- 「思索」という表現は、あまりなじみもなく、難しく感じるかもしれないが、ショーペンハウアーがいうそれはじつに明快で、私たちがいつか向き合わなくてはならない人生がらの問いを生きていることを指す。

2 本を読む我々は、他人の考えた過程を反復的にたどるにすぎない。とあるが、本文において、他人の考えた過程を反復的にたどる読書のことを筆者はどのように表現しているか。最も適しているひとつづきのことを、本文中から十二字で抜き出さない。

3 「読む」ことで終わりにするのではなく、「書く」ことだ」とあるが、本文中で筆者が、思索の準備として「読む」として「書く」ことの両方を挙げているのはなぜか。その内容についてまとめた次の文の に入る内容を、本文中のこのばを使って四十字以上、五十文字以内で書きなさい。

思索の準備として、「読む」ことで人が ことができるから。

4 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。

最も適しているものを選び、記号を○で囲みなさい。

ア 読書は自分だけの固有な経験であり、同じ本を読んでもそこに見出す意味は個々の人間によってまったく異なるため、学問的な事実を探究する学者と違って、私たちは書物から客観的事実を見つけることはできない。

イ
フルで長く泳げに海を深く理解できると信じ込むこ

書について述べた著書の表題を「思索について——読書によって陥りがちなわなをめぐって」とした。

の側面にほかならず、人生の意味を真に認識しようとするとき、それらは呼吸のように分かちがたく結びつく。

